

今週のメニュー

■トピックス

◇「塩ビのさらなる進展を期待」

－宇田川新会長 VEC総会後の懇親会にて挨拶－

■随想

◇自己紹介

VEC事務局長 高橋 満

■編集後記

■トピックス

◇「塩ビのさらなる進展を期待」

－宇田川新会長 VEC総会後の懇親会にて挨拶－

5月20日（火）に、塩ビ工業・環境協会第17回総会・懇親会を開催いたしました。今年度は役員の変更期にあたり、宇田川会長（東ソー(株) 代表取締役社長）、亀高副会長（(株)カネカ 執行役員）が新しく就任いたしました。

以下に、宇田川新会長の懇親会での挨拶を掲載いたします。

本日は皆様ご多用中のところ、多数ご出席を賜り、誠に有難うございます。

ご列席頂きました、経済産業省の谷審議官様をはじめ関係官庁の皆様、マスコミの皆様、塩ビ製品業界や商社の皆様、さらには日頃より塩ビ産業に様々なご支援をお寄せ頂いております皆様におかれましては、平素より塩ビ工業・環境協会の活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

先刻開催されました弊協会第17回総会におきまして、森会長の後を受け、私が会長の大役を拝命したところでございます。また、副会長としてはカネカの亀高執行役員が就任いたしましたのでご報告します。新体制においては、会員一同力を合わせて塩ビ産業の益々の発展のため、努力致しますので、ご列席の皆様の一層のご助力、ご指導をお願い申し上げます。

さて、日本の経済は政府によるデフレ脱却と経済再生への実現に向けた金融、財政政策の展開により、円安・株高となり金融市場は好転し、企業活動も活性化し、雇用・所得環境も着実に改善を広げながら、設備投資などの回復が期待されるようになりました。そのような環境下、2013年度の塩ビ樹脂は、生産量が143万トン、



宇田川会長



谷審議官



亀高副会長

国内出荷が109万トンと前年比106%、輸出は34万トンと前年比126%となりました。国内出荷は、リーマンショック前の水準まで回復しており、引き続き伸びていくことと期待しております。

弊協会は、これまで、塩ビについての誤解を客観的なデータをもって解くことにつとめ、合わせて、塩ビ製品のすぐれた環境特性について広くご理解いただくべく、情報発信等を経て参りました。その結果、長らく塩ビ差別の象徴となっていた、GPNのガイドラインにおける塩ビ情報提供義務が、この2月に正式に削除されました。建材、自動車などの分野では塩ビ回帰が進んできています。また、省エネ・温暖化対策の要となる樹脂窓においては、その性能を大手サッシメーカーが本格的に競うようになってきております。

さらに、3回目の開催となりましたPVCデザインアワードは、多くのプロフェッショナルなデザイナーが積極的に参加し、応募作品の数、質ともに格段に向上いたしました。塩ビ製品のイメージアップにも貢献しておりますが、このアワードを契機に芽生えた、デザイナーを介した垂直・水平方向の企業間協力による新製品の開発がさらに進んでいくことを期待しております。

今年度は、先ほどの総会で報告されました以下の点に重点を置き取り組んで参ります。

1点目は、引き続き塩ビの環境性能について正しい理解を促進し、企業等に未だに残る塩ビを忌避する規格やガイドラインなどの見直しを促していくことです。先ほど紹介したGPNガイドラインの改正がその大きな助けとなると考えております。

2点目は、デザインアワードで育ちつつあるサプライチェーンにおける協力を一層進め、業界の活性化と優れた塩ビ製品の創造を促進することです。

3点目は、塩ビ製品の重要な特長であるリサイクルの可能性をさらに広げるべく、リサイクル手段、技術開発を関連業界、事業者と連携して促進します。

4点目としては、国際的活動を通じて、海外のパートナー達と塩ビに関連する情報を共有し、根拠のない忌避の動きに対応し、また、積極的に塩ビ製品の環境性能をアピールして参ります。

5点目は、塩ビ建材普及を積極的に進めるべく、建材メーカーとの連携を深め、情報共有や試験評価方法の開発などを進めます。樹脂窓については住宅断熱の重要性を訴える活動を関係者と連携して進めて参ります。

そして最後になりますが、優先度の高い課題として、工場環境・保安、化学物質管理についての取り組みを、行政、関連諸団体等と協働し進め、会員各社の安全・保安に関する知識・経験をしっかりと共有し、今後も力を入れて参ります。

これらの活動を進めることによって、塩ビの復活、需要拡大を図る所存でございますが、改めて、経済産業省をはじめ関係行政政府のご支援をお願いするとともに、塩ビ関連業界、塩ビ製品をご愛顧いただいておりますユーザー業界、マスコミ関係各位のご支援、ご協力をお願い申しあげる次第です。

最後に、本日ご列席の各社の事業の益々のご発展と、ご参集の皆様のご健康、ご多幸を祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

■ 随想

◇自己紹介

VEC事務局長 高橋 満

はじめまして、今月より事務局長を拝命した高橋満と申します。およそ二年前の2012年4月に、東ソー(株)より出向し、環境・広報部にて、主に行政・企業、メディア、一般消費者向けの広報を担当してきました。もともと山口の南陽事業所では研究所に所属し、フッ素、エチレンアミン及び環境薬剤など、主にファインケミカル製品の開発に携わっておりました。環境薬剤の開発では開始から市場展開にかけて、ほぼ全国の一般ごみ焼却場および納入される焼却炉メーカーを訪問しましたが、ちょうどダイオキシン問題が大きくクローズアップされた時期でもありました。一般廃棄物の処理問題と対策という、この点では塩ビとの接点がありました。同事業所内には、塩ビのモノマーおよびペースト塩ビのプラントがありますが、私自身が塩ビの製造・製品に係ることが少なかったことから、着任以来、下学上達に努めてまいりました。当然上達までには至っておりませんが、短い期間とはいえ、幸いにして結構多くのことを学べた（とっていますが）のは、訪問させていただいた企業の皆様、ものづくりコンテストでご説明いただいたサプライチェーンの皆様、塩ビ業界内外の多くの皆様にご指導、ご教示いただいたおかげと感謝しております。

さらに幸運なことには、長年、協会が取り組んできたGPNガイドラインにある塩ビの情報提供項目の削除が達成される場面に立ち会うことになりました。既にHPなどご承知とは思いますが、塩ビ忌避撤廃について取り組んでこられた業界の皆様、協会の諸先輩の皆様にあらためてご報告させていただくとともに感謝いたします。

私の体は、山口にいるときからメタボ解消対策が必要とされ、減量を強要されています。通勤の際に、なるべく二、三駅前で降りて歩くようにしていますが、なかなか減量できませんでした。单身社宅から多摩川、鶴見川まで数キロなので、晴れた土曜に自転車（息子が中高で愛用したママチャリ）で出かけ、数十キロ走ってみたところ結構いい運動になるなと思い、早速、はやりのクロスバイクなるものを購入、一日100キロを目標に週末走り始めました。さすがに100キロはへとへとになるので、より軽いロードバイクに買い換えましたが、今は70キロ程度でも減量作戦には有効と考えることにしています。

さて、塩ビ忌避の撤廃、塩ビの復活をテーマとして活動してきた結果、正しい理解の普及が進んできていると実感しています。今後もこのテーマは変わりませんが、塩ビの本当の良さを知っていただき、新しく素晴らしいソフト塩ビ製品、省エネ貢献樹脂窓、さまざまなりサイクル技術がさらに進展いくよう努めてまいりますので、ご指導をよろしくお願いいたします。



多摩川から富士山を望む



東扇島からの東京湾

■ 編集後記

随想でご紹介のように、5月20日の総会で弊協会の新事務局長が就任いたしました。

小生はこの編集後記が最後となりますが、メルマガ編集責任者になってから早いもので8年が経過しました。当初は記事が続かなければ月一にしておしまおうと考えておりましたが何とか週一回の発刊を継続できました。偏に執筆いただいた方々のご協力の賜物と思っております。この間、塩ビ忌避が再検討にシフトし、サッシのように今後が期待できる分野も出るなど塩ビの置かれた環境も変わり、VECの活動もこれに応じて塩ビの需要増に繋がる活動を増してまいりました。今後も今までと変わらぬご支援とメルマガのご愛読をお願い申し上げます。

(前編集責任者 東 幸次)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp